

避難所体験 宿泊防災教室

案内パンフレット



おにぎり作り



障がいのある人には…



ダンボールを組み合わせて



学校備蓄倉庫見学

中学生・高校生など若い世代が、災害時に自分たちの地域を守るリーダーになれる…宿泊体験学習プログラムです。

大規模災害が起きたら…？



避難所体験宿泊防災教室のコンセプト

想像

自分のこととして



夜は懐中電灯だけでグループミーティング

学び

東日本大震災に



被災し避難所を運営した方の講演

共有

話し合い、つながる



大学生の助言を受けミーティング

震度7の大地震が起き、電気・水道・ガスが止まり、交通も通信もストップしている中、避難所に集まると想定して、体験学習が始まります。一つ一つの課題に参加生徒は、指示されて動くのではなく、自分たちで考え、工夫して取り組むことが求められます。

体験プログラムの一例（中学校で実施の場合）

～第1日～

- 16時 開講・ガイダンス
- 17時 備蓄倉庫見学
- 18時 アルファ化米でおにぎりを作り
避難者に配布・夕食
- 19時 避難所を運営した方の講演
- 20時 ダンボールで寝るスペース作り
- 21時 グループミーティング
- 22時 就寝

～第2日～

- 6時 起床・支援物資配布・朝食
- 7時 土のう作り
- 8時 避難所運営シミュレーション
ゲーム
- 9時 まとめのミーティング・発表
- 10時 閉講



▲講演会で質問する生徒



▲ダンボールで寝床ができた



▲大事だと思ったことを発表

講演会の一例（宮城県東松島市で被災され、避難所で班長をつとめた方）

演題：「東日本大震災 あの時、私は・・・ あの日を忘れず、ともに未来へ」

内容：津波に車ごと流され、助けられた。避難所の中学校に1500人が集まった。被災後約10日間の避難所の様子。3日目おにぎり1個、4日目食パン1枚。その場にいる人がリーダーになり、まとめていく。中学生が進んでみんなに声をかけ、手助けしてくれた。その笑顔に救われ、がんばることができた。（10月11日の講演より）

体験学習の目標

避難所で助けられる側から、 助ける側の人間になるために

地域全体で参加できる

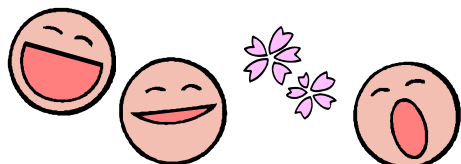
学校、PTA、自治会・町内会などからも日帰りでの参加が可能です。講演会を聞き、避難者役をすることで、被災時のことがより具体的に想像できます。



▲さまざまな避難者役をする参加者



▲「私が助ける」と工夫する生徒



参加生徒の感想

～自分の中で変わった点～

- 被災者の話を聞き、知らなかったこともたくさんあって、見方が変わった。
- ニュースでは見られない避難生活の実情を知り、驚いた。
- 意外に自分でもみんなの役にたてるんだなと思った。
- 話をしたり、自分たちの笑顔が人を元気づけられることを知った。
- 被災したときにたくさん手伝おうと思った。
- 障がいのある人に分かるように説明できる可能性を感じた。
- 自分にできることを探して、行動することが大切だと思った。

参加生徒のアンケート結果

- 今回の体験教室で、自分の中で変わったことがある **93%** / ない **7%**
- 今後このような体験教室があれば、また参加したい **100%** / したくない **0%**

協働開催団体・機関を募集

縁プロジェクトと協働で、避難所体験宿泊防災教室を開催していただける団体を募集します。縁プロジェクトが、企画、地域とのコーディネート、講師依頼をします。

会場 大田区内の学校体育館、または宿泊可能な施設を確保してください。

対象 大田区在住・在学・在勤の 中学生・高校生・大学生・青少年、および防災に関心のある社会人。

人数 宿泊は30人を標準とするが、会場に見合った人数を相談の上、決めます。

費用 人数分の宿泊費・講師への謝礼を負担願います。

申込み & 問い合わせ先

縁（えにし）プロジェクト 会長 仙 裕司

TEL 090-3687-2136

避難所体験宿泊防災教室の歩み

2013年 6月 縁プロジェクトの「区内在住・在学学生向けの被災疑似体験型教室による防災リーダー養成」事業が大田区地域力応援基金助成（スタートアップ助成）を受ける。

10月 大田区立東調布中学校で「お互いの命を守る宿泊体験研修会」として、大田区防災課などの協力を得て実施。宿泊参加生徒15名、講演会を中心に生徒、保護者、地域住民、関係諸機関など合わせて64名が参加。

12月 2014年度の助成継続を申請済み。

～被災地から助言者として参加した大学生の話～

半年経った頃、テレビなどでも震災の話をするのが少なくなり、被災者はみんないっぱいいっぱいなのに、誰に助けをもらえばいいんだろうと怖くなりました。しかし、今でもこうして震災を風化させないようにしてくださる方がいることを実感することができました。心の支えになります。

被災地から講師を招くことが、支援の一つになることがわかります。

大田区と区民が続けてきた被災地との交流が基になっています。

縁プロジェクトとは…



縁プロジェクトって
何ですか？



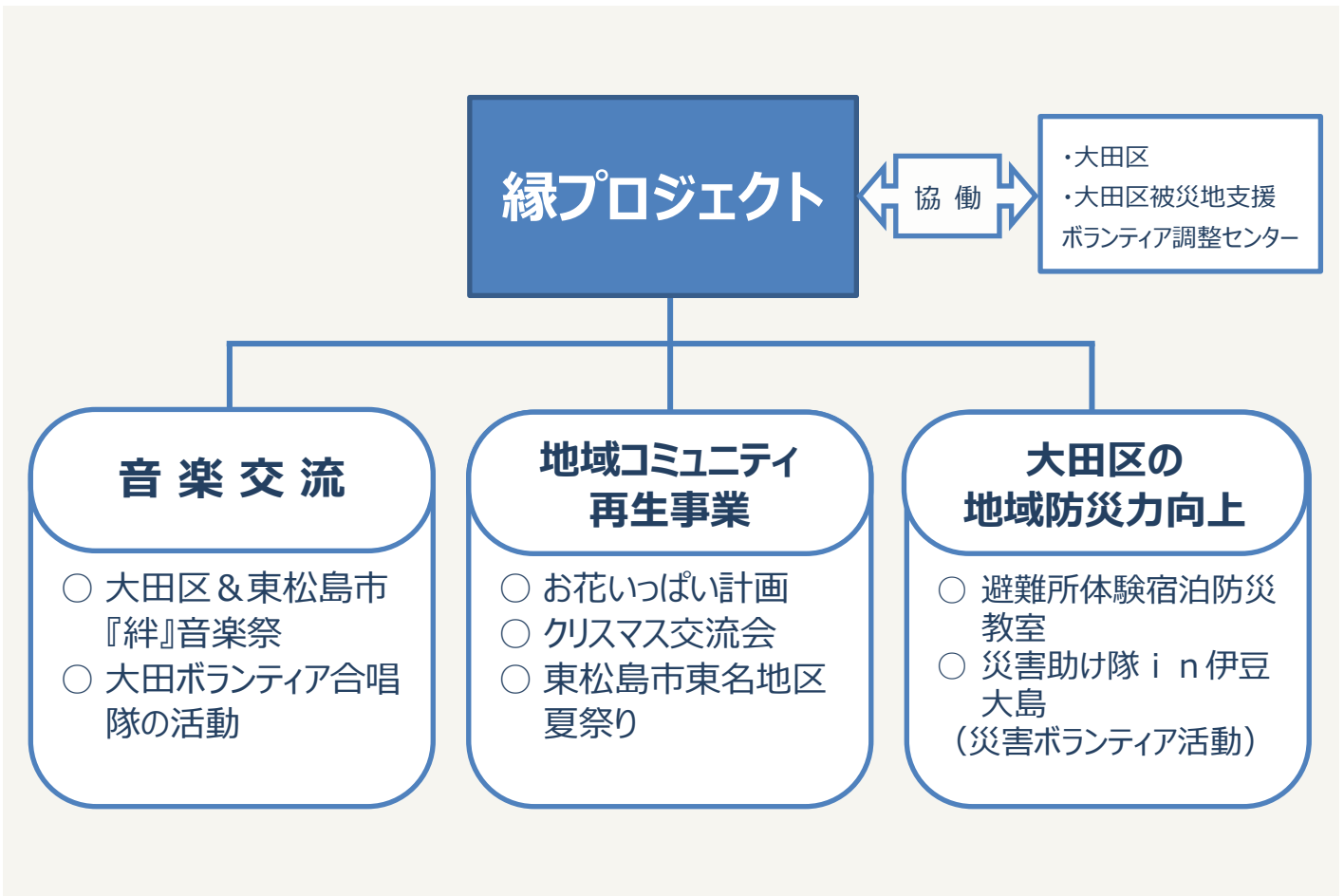
大田区では、2011年3月11日の東日本大震災発災以降、区と区民が一体となって、被災地、被災者及び避難者の支援ボランティア活動を行ってきました。その活動は現在も続いており、宮城県東松島市と大田区は深い「縁（えにし）」と「絆」で結ばれています。

縁プロジェクトは、東松島現地ボランティア活動メンバーが中心となって、2012年1月に設立したボランティア団体です。大田区の社会教育関係団体にもなっています。

大田区及び大田区被災地支援ボランティア調整センターと協働し、様々な活動を行い、将来も展望しながら、相互交流事業を展開してきました。

2013年からは、被災地で学んだことを大田区の地域防災に活かす取り組みもしています。東松島市だけでなく、伊豆大島の被災地でも災害ボランティア活動を行い、メンバーのスキルアップを図り、災害時に大田区民へ還元できるように備えています。

組織関係図



2013年の主な活動

第2回絆音楽



松ぼつくりの里帰り大作戦



災害助け隊 i n 伊豆大島



避難所体験宿泊防災教室



活動指針

- **震災を忘れない** 被災地の現状を伝え、復興支援を呼びかける。
- **被災者と共に歩む** 相互交流事業を行う。
- **地域防災に役立てる** 被災地に学び、区民の防災力向上に役立てる。

こんなこともしました



子ども交流センターで被災地へのクリスマスカードを集める。

「とっておきの音楽祭 in 東まつしま」に出演した大田ボランティア合唱隊



被災地の公園に桜を植樹

関連情報

■ 大田区&東松島市『絆』音楽祭

[大田区&東松島市 絆 音楽祭が開催されました] 大田区ホームページ 2012年5月22日更新

[第二回 大田区&東松島市 絆 音楽祭が開催されました]大田区ホームページ 2013年6月3日更新

■ 大田ボランティア合唱隊

公式ブログ <http://ameblo.jp/enishi-project/>

地域防災のリーダーを育てる

避難所体験宿泊防災教室 案内パンフレット

発行責任者 縁プロジェクト会長 仙 裕司

2014年1月9日 第1版 発行

この冊子は、地域力応援基金の助成を受けて作られました。

